

第4回「インドから見る“援助”の現実」

日時：6月6日(水) 午後7時～午後8時30分

会場：龍谷大学 大阪梅田キャンパス 研修室

講師：宮下 和佳

認定特定非営利活動法人 ソムニード 事務局長代行

URL <http://somneed.org/>



第4回の講師を務める宮下和佳さんは、特定非営利活動法人関西 NGO 協議会を経て、2010年より認定特定非営利活動法人ソムニード（以下、ソムニード）の海外事業コーディネーターとして、JICA 草の根技術協力事業「インド・ビジャカパトナム市近郊の低所得者を対象としたマイクロクレジット強化プロジェクト」*の現地業務調整員を務めました。帰国後はソムニード事務局長代行として、国内事務局の統括や海外事業の後方支援に携わっています。

*プロジェクトの詳細は JICA のサイトから閲覧いただけます。

http://www.jica.go.jp/partner/kusanone/partner/india_12.html

講義概要

今回の講座では、インドの女性たち自身によるマイクロファイナンス・プロジェクトの経験をお話いただきました。ソムニードは国際機関・政府・NGO の援助によって“お客様”状態になっていた女性たちが、自分たちの力で「貧しさ」から抜けだすための助け合いの仕組みづくりを支援してきました。そうしたソムニードの取り組みについて学び、援助のあり方について考えました。

マイクロファイナンスの現実

マイクロファイナンスとは、主に低所得者層に対し無担保で小口の融資を行う金融サービスの事です。1970年代にバングラデシュで生まれたグラミン銀行など、自営業や零細農家の支援手法として有名になりました。インドでもマイクロファイナンスを普及させようと、世界銀行などの国際機関からインド政府や州、そして地域で活動する NGO へと資金が流れていました。しかし「マイクロファイナンスを実施する」ことが目的化し、借り手の現実には即した融資が行われないことが多くみられます。中には、様々なマイクロファイナンスから次々にお金を借り、多重債務に陥るケースさえ起こっています。融資の対象は主に女性たちを組織化した SHG（セルフヘルプグループ）とよばれる自助グループですが、「自助」とは反対の、「援助」への依存心さえ生むようなことが行われていたのです。

ビジャカパトナム市の低所得者を対象とした取り組み

宮下さんが活動した地域は、インドのビジャカパトナム*市内のスラムです。ある地域の例では、平均月収が約 2,700 ルピー（約 4,000 円）といわれますが、多くの世帯は収入が不安定です。日雇い仕事や零細自営業を生業としている人が多いからです。そうした不安定な状況に置かれたスラム女性たちが、ビジャカ・ワニタ・クランティ（以下、VVK）という銀行を設立しました。VVK は会員の女性たちによる貯蓄や出資金のみを原資として、少額融資（マイクロクレジット）を会員向けにおこなっています。ソムニードは、彼女たちが自らの手で VVK を運営し、ひとりでも多くの女性たちに融資を提供できるような技術的支援を行い、まずは以下の4点を重要項目として、全会員を対象にマイクロクレジットを運営するための研修を実施しました。

- ① 自分たちで集めた会費や貯金を会員間できちんと貸し借りすれば、困っている会員が融資を利用することができるという仕組み
- ② 貸し借りのルール。たとえば取引の際には金額を明記し、必ずスタッフのサインを入れること
- ③ ローンの借り方
- ④ 家計が苦しくなる時期を予測して計画的に借り、返済する

当初、うまく進んでいるかに見えたプロジェクトですが、会員から集金したお金をスタッフが自分の財布に入れたり、会則を無視した貸し出しがなされているといった不正が発覚しました。ソムニードから、「自分たちで決めたルールも守れない団体（VVK）とはパートナーでいられない」と、支援の打の打ち切りを宣告された VVK。話し合いを重ね、スタッフや運営委員が会員すべての家に戸別訪問して帳簿を再度確認し、研修も徹底して繰り返し何度も行いました。こうして再出発した VVK は、会員にルールを徹底させることによって貸出業務が早くなり、運営能力を向上させました。また返済回数を本人の能力に合わせることで資金の回転を早くし、必要とする人に融資がまわる体制が整いました。

こうした地道な作業により、VVK の貯蓄や融資の仕組みを理解した会員が増え、2010 年度末の時点で VVK の会員数は 1,596 名（2007 年度 625 名、2008 年度 555 名、2009 年度 745 名）、VVK が融資を提供した総額は 152 万 6 千 5 百ルピー（2007 年度約 58 万ルピー、2008 年度約 92 万ルピー、2009 年度約 110 万ルピー、1 ルピー＝約 1.9 円）と大きく増加しました。こうして VVK は会員数や融資額を大幅に増やすことに成功しました。

*インドのアーンドラ・プラデーシュ州。ベンガル湾に面した港湾都市。

支援のあり方を考える



宮下さんは、NGO が支援する上で大切なことは、文化も背景も異なる人たちに対して、同じ人間として対等感を持って課題の解決にむけて協働することだといいます。NGO が援助を永遠に続けることは不可能ですし、援助を受ける側も“お客様”であり続けることは問題です。支援の目的は“支援を必要としなくなる”こと。彼らがマイクロファイナンスを通じてお互いに助けあって豊かになっていく、そのための一助をすることがソムニードの考える支援です。こうした「助け合いのための仕組みづくり」は、地縁血縁といった伝統的なコミュニティが衰退した日本でも、実は必要になってくる事かもしれません。